



平成 22 年 11 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社NFKホールディングス
代表者名 代表取締役社長 久保田 隆
(JASDAQ・コード 6494)
問合せ先 役職・氏名 取締役 田 中 耕
電話 045-575-8000

平成 23 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想値との差異及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 22 年 5 月 14 日付「平成 22 年 3 月期 決算短信」にて発表いたしました平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結業績予想値と本日発表予定の実績値につきまして、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 23 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期 (累計) (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり四半期 純利益 (円)
前回予想 (A)	991	△122	△119	△121	△4.08
今回修正 (B)	870	△206	△202	△169	△5.71
増減額 (B - A)	△121	△84	△83	△48	—
増 減 率	△12.2%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	1,593	31	31	151	5.10

(2) 第 2 四半期 (累計) 業績予想との差異について

売上高は、当初の予想を121百万円下回る870百万円となりました。これは、子会社の日本ファーンエス株式会社において単体ベースでの売上高が、国内景気停滞などによる受注環境の悪化等により、当初の予想881百万円に対し766百万円と115百万円下回ったほか、株式会社ファーンエス E S においても43百万円、株式会社光電機製作所においても6百万円当初予想をそれぞれ下回ったことによるものです。

営業利益、経常利益につきましては、売上高減少にともなう利益の減少、受注競争激化にともなう営業利益率の低下、製品不具合による改修費などのクレーム費用の発生などにより、子会社各社の営

業利益および経常利益が当初予想を下回ったことなどから、連結業績につきましても、それぞれ営業利益で当初予想を84百万円下回る206百万円、経常利益は当初予想を83百万円下回る202百万円の損失となりました。

これらの結果、四半期純損失は169百万円と当初の予想を48百万円下回る見込みとなりました。

(3) 通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益（円）
前回予想（A）	3,037	28	33	35	1.18
今回修正（B）	2,074	△346	△338	△310	△10.46
増減額（B－A）	△963	△374	△371	△345	－
増減率	△31.7%	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	2,640	△61	△46	△86	△2.91

(4) 通期業績予想の修正について

当社では、前期末より国内経済の緩やかな景気回復傾向が見られたことなどから、下期にかけて国内景気回復による受注環境の改善等を見込んでおりましたが、円高などを背景にした輸出や生産の鈍化、依然として厳しい雇用情勢などにより先行き不透明な状況が継続しており、未だ企業の設備投資は極めて厳しい状況で推移しております。この状況を踏まえ当社では、下期に向けた業績の回復が見込めないと判断し、各部門別の業績予想の見直しを行った結果（下記部門別通期業績予想を参照）通期連結業績予想を修正することを決定致しました。

厳しい事業環境ではございますが、引き続き積極的な営業活動を展開して新規受注の獲得を目指すとともに、販売管理費の抑制などに努めてまいります。

主な部門別 通期（連結）売上高予想

（単位：百万円）

部門	前回予想売上高	修正後予想売上高	増減率
環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門	1,000	549	△45.1%
工業炉部門	550	322	△41.5%
ボイラ用機器部門	450	241	△46.4%
工業炉用機器部門およびHRS部門	400	417	4.3%
メンテナンスサービス部門	304	295	△3.0%
部品部門	300	246	△18.0%
電気計装制御盤部門	95	89	△6.3%

*セグメント間取引について、相殺消去などを考慮していない部分があります。

① 環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門

環境装置石油化学部門および産業機械用機器部門につきましては、主要顧客の設備投資抑制の影響などから、国内向け大型案件の来期以降への延期、東南アジア向け大型案件の大幅な縮小などが相次ぎ、当初の予想売上高1,000百万円を大幅に下回る549百万円の売上高に予想を修正しております。

② 工業炉部門

工業炉部門におきましては、国内向け大型熱処理炉の新設が大幅に減少しており、下期も回復が見込めない状況となった事などから、当初の予想を 228 百万円下回る 322 百万円の予想に修正しております。

③ ボイラ用機器部門

ボイラ部門におきましては、従来は安定的な売上が見込めたボイラメーカー向け製品がエンドユーザーの設備投資意欲減退などを理由に大幅に減少しており、下期も回復の兆しが見込まれない状況であることなどから、当初の予想売上高 450 百万円を大幅に下回る 241 百万円の予想に修正しております。

④ 部品部門

部品部門につきましては、全社的に受注が低迷している影響などから当初の予想 300 百万円を 54 百万円下回る 246 百万円の予想に修正しております。

2. 平成 23 年 3 月期 個別業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期 (累計) (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益 (円)
前回予想 (A)	147	△3	△2	21	0.71
今回修正 (B)	143	20	27	53	1.80
増減額 (B - A)	△4	23	29	32	—
増減率	△2.7%	—	—	152.4%	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	176	17	28	112	3.78

(2) 第 2 四半期 (累計) 業績予想との差異について

売上高につきましては、当初の予想を 4 百万円下回る、176 百万円となりました。営業利益、経常利益につきましては、徹底した販売管理費等の節減に努めた結果、それぞれ予想を上回る 20 百万円および 27 百万円の利益となりました。四半期純利益につきましては、役員退職慰労金制度廃止にともなう役員退職慰労引当金の戻入額として 25 百万円を特別利益として計上したため、当初の予想を 32 百万円上回る 53 百万円となる見込みであります。

(3) 通期 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益 (円)
前回予想 (A)	295	5	8	35	1.18
今回修正 (B)	286	33	47	72	2.46
増減額 (B - A)	△9	28	39	37	—
増減率	△3.1%	560.0%	487.5%	105.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	309	△16	△9	△93	△3.17

(4) 通期業績予想の修正について

売上高につきましては、当初の予想を9百万円下回る286百万円となる見込みです。営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、徹底した販売管理費等の節減に努め、それぞれ予想を上回る33百万円および47百万円、72百万円の利益となる予定です。

(注) 上記の予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上